

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会  
第5回 議事要旨

日時：令和2年1月28日（火）15:00～17:30

場所：フクラシア丸の内オアゾC会議室

出席：

委員長 藤野 陽三（横浜国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授）  
委員 太田 秀樹（中央大学 研究開発機構 機構教授）  
宮川 豊章（京都大学 学際融合教育研究推進センター インフラシステムマネジメント研究拠点ユニット 特任教授）  
西村 和夫（首都大学東京 理事・学長特任補佐）  
高橋 知道（東日本高速道路（株）管理事業本部長）  
源島 良一（中日本高速道路（株）保全企画本部長）  
北村 弘和（西日本高速道路（株）保全サービス事業本部長）  
オブザーバー 前内 永敏（（独）日本高速道路保有・債務返済機構 企画部長）

議事：

1. 委員会設立趣旨、検討内容とスケジュール
2. 技術検討委員会提言（2014.1.22）の振り返り
3. 特定更新等工事の実施状況と課題に対する対応状況
4. 定期点検一巡等を踏まえた対応
5. 今後の検討課題

主な意見：

1. 特定更新等工事の開始から5年間で取り組んできた事項に関する報告により、提言を踏まえた取り組みがなされ、事業を実施する中で生じた課題にも対処しながら進められていることを確認した。
2. 詳細調査の結果により、大規模更新・修繕に位置付けられた橋梁・トンネル以外にも同程度の事象が確認され、更新・修繕の検討が必要であることを確認した。また、大規模更新・修繕に位置付けられている橋梁・トンネルも、詳細調査結果を踏まえて計画的に対応していくことが必要であることを確認した。
3. 今後も「高速道路における安全・安心実施計画」やその他の機能強化に関する事業など、多岐にわたる対応が見込まれる一方で、入札不調が顕在化するとともに、引き続き社会的影響へ配慮して交通規制による渋滞を抑制していかなければならないといった厳しい事業環境となっている。こうした厳しい事業環境にあっても、構造物の状態を的確に見極めて優先順位を明確にし、部分的な修繕も取り入れながら、安全を第一とする対応を継続していくべきであり、15年間の事業期間や、事業の平準化についても検討していくべき。
4. 新規建設に比べて、画一性が少なく技術的に高度である特定更新等工事は、入札不調対策として、受注者の工夫・提案に対するインセンティブが必要ではないか。
5. 今後の検討課題として、近年激甚化する自然災害を踏まえた対応、新たな技術基準への対応、今後の点検等の状況を踏まえた新たな知見に基づく対策のほか、工事従事者の安全確保、維持管理しやすい道路構造、ライフサイクルコストや環境への配慮など、幅広く検討していくべき。